

1 学校教育目標

○進んで考える子 ○仲よく助け合う子 ○心と体をきたえる子 ○最後までやりぬく子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	生きる力を身に付けさせる学校	○学びの楽しさや喜びを発見できる学校	○豊かな人間性を培う学校
		○健やかな心身を育む学校	○地域・家庭から信頼される学校
○児童・生徒像	知徳体の調和のとれた児童	○主体的に学び、自分の考えをもち、表現できる児童	○豊かな心で自己と他者を認め、高め合える人権感覚の備わった児童
		○心身ともに健康でたくましい児童	○何事にも意欲的に挑戦し、粘り強く努力する児童
○教師像	使命を全うできる教師	○専門職として優れた知識や技術を備え、意欲的に研鑽に励む教師	○児童を大切にして、大人として手本となれる社会人
		○教育課題に適切に対応できる責任感と実践力を身に付けた教師	

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

教育課程の正常な運営が難しい社会情勢の中で、地域・保護者の方々のご理解とご協力、そして教職員を始め学校関係者のみなさんの取組により、ほぼ順調に運ぶことができた令和3年度であった。行事等については中止や規模の縮小等もあったが、それは従来当然としていた物事に対する精査を行う契機となったともとらえることができた。タブレット1人1台貸し出しのGIGAスクール構想や2030年の地球を目指したSDGsなど時代に即応した項目に対しても、比較的摩擦や抵抗感もなく本校の児童や家庭の受け入れは行われている。

その新たな取り組みを停滞させずに「子どもたちのため」に効果的に活用させて行くことが我々の責務である。従来の古い体制に慣れた指示待ちの教員ではなく、自らが構想を持ち、それを実現しようとする教師集団を構成したい。未来のIT社会において圧倒的に不足しているグローバル人材の基礎作りの場としてもその責務は大きいと言うことを職員一人一人が認識して教育活動に携わっていきたい。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	人権感覚を備えた豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	健やかな心身の成長を促す体力向上	○	○	○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
主体的に学びに向かう姿勢の育成		学力調査通過率 80%以上		全校 国 81.2%↓ 算 86.4%↑		目標とした通過率は概ね達成しているが、個人や学年間の較差が見られる。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	教員の授業力向上	全教員 国・算	通年	・校内研修（全体・個別OJT）の充実。 ・外部研修への参加推進	・授業診断 ・学習成果	各種学力調査結果が全国・都区内平均値以上	・年8回の校内研修会 ・区小研の全員参加 ・指導教諭授業の活用	・教職員全体が従来の形式にとらわれない方向性で共通認識を持っている。	○
2 継続	ICTの活用DXの取組	全教員 全教科	通年	・GIGAスクール構想の趣旨に沿った現場での活用 ・データの効率的分析	・学習成果 ・児童、教師の学校評価	年度末に8割以上が肯定的回答	・AIドリル活用率80%台であるが学級間較差がある ・ポートフォリオは未達成	・キュビナやICT活用について全職員を原則に研修を行っている。	△
3 継続	学力補充体制の充実	全児童 国・算	火木 月火金 夏休み	・担任指導の朝学習ドリル ・全教員対応による放課後補充教室やサマースクール	・学習成果 ・児童の学校評価	対象児童の年度末までの向上や変容	・朝の授業前時間の活用 ・週平均4回の補充教室 ・サマースクール等	・担任、専科が協働で補充体制の定着化を進めた。	○
4 新規	SDGsへの取組	全児童 全教科	通年	ターゲット4.7(ESD)の各指標と教科の関連性を明確にして指導を行う。	単元毎の振り返り(まとめ)	意識調査の肯定的反応が8割を超える	・全学年を通じた、地域学習やキャリア教育の実施による意識の定着化	・従来の学習活動に後付け的な設定をするのではなく、計画的指導を行う。	○
5 継続	家庭学習の充実	全児童 書く重視	通年	・日記等の作文指導 ・宿題の提示から自主的学習への移行指導	学力調査等で「書く力」の向上率を検証	各種学力調査の成果向上	・タブレットの活用促進 ・自主学習ノートの活用 ・作文への取り組み	・タブレットの効用を家庭学習で取り入れようと検討中である。	△
6 継続	学校図書館活用	全児童 全教科	水曜日夏 休み 通年	・朝読書 ・調べる学習への参加 ・読書感想文への取組 ・読み聞かせ、ブックトーク、ビブリオバトル等	・読書数冊数 ・作品提出率と内容の充実 ・児童の学校評価	年度末までに読書に対する肯定的反応が8割を超える	・読み聞かせ活動の定着 ・調べる学習コンクールへの原則全員参加	・ICTを定着しつつ、学校図書館の持つよさを、児童教員ともに理解して、活用推進している。	○
7 継続	各種検定等	全児童 国・算 英語	通年	開かれた学校づくり協議会とのタイアップによる漢検や算数検定・英検の実施	・受検者数 ・合格者比率	・全校児童3分の1以上受検 ・合格率8割超	・漢字検定47名受験。	・コロナ禍の余波で実施した内容が漢検止まりであった。	●

重点的な取組事項－2		人権感覚を備えた豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
自分を大切に思い、他者の人権を尊重できる均整のとれた公正な心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価において児童の9割以上が生活への肯定的な姿勢を示す。 ・QU調査による自己肯定感の高い児童が8割を上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級満足度や学校生活意欲について肯定的な児童が全校平均で61%（全国平均43%）であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年学級により満足度の較差があり、78%～39%の違いがある。 	△	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
SDGs ターゲット 4.7 (ESD) の定着化① 人権尊重教育・福祉	学校関係者評価で児童の9割超が学校生活に対して肯定的意見をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権プログラム」を併用した道徳授業の充実 ・いじめ撲滅への指導 ・なかよし班活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業については、目標に即して計画的に展開することができた。また、児童の生活状況に応じた題材選びなど、各担任が状況把握と教材研究の工夫を重ねて取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イジメや友人関係のトラブルが発生しても、保護者を介する前に子どもたちが自ら考えようとする土壌を培っていきたい。 	△
SDGs ターゲット 4.7 (ESD) の定着化② 環境教育・国際理解		<ul style="list-style-type: none"> ・日常の当番活動への取組 ・地域清掃やユニセフ参加等のボランティア活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・例年実施しているユニセフの募金活動を単に形骸化させないために、趣旨を児童へ周知させた。 ・環境への取り組み関わる講演や体験等、感染対策の上で各学年行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや福祉について「してあげている」という見地からの脱却を図り普遍化させることは必須。 ・環境教育等については自らも関わっているという当事者意識をもたせることが重要であり課題と言える。 	○
生涯学習を意識したキャリア教育	「夢デザインシート」作成内容の充実度等	道徳授業地区公開講座や同窓会とのタイアップでの講演会、TGG やキッサニア等外部機関活用等多面的アプローチによる生涯学習や職業学習への意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で、外部関係者の出入りが制限されるなどの中でキャリア教育的な学習機会の設定には限界があった事は否めない。具体的イメージを持った進路を意識した活動は、多くは行えなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年においては、漠然としたものでも夢を大切に描かせ、中・高学年と進度に合わせて、自らの生活に生かせる夢と希望を育む機会を職員間で共有させる。 	△

重点的な取組事項－3		健やかな心身の成長を促す体力向上			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
主体的に健康に留意できる心を培い、運動に親しみ体力向上を目指す態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の能力が全国平均或いは、それを上回ることを目指す。 ・体育好きの児童が9割を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究において88%の児童が体育に対して肯定的な回答をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国体力調査で跳躍力に要改善の傾向が見られた。 	○	

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体育授業の充実と外遊びの推進	・体力調査結果の前年度比向上	・体育理論を正しく踏まえた授業の展開 ・教師もともに外へ出る	・校内研究で体育を扱い、選手育成のような特別なものでなく、運動好きの子を育てることを目指し取り組んだ。	・体作り運動を通して、運動好きの子が増えている。今後も楽しさを加えて取り組んで行く。	○
コーディネーショントレーニングの定着	・体力測定記録の向上 ・落ち着いた学校生活と学力向上への波及効果	・体育授業への導入 ・朝スポーツでの実施 ・教員の独自の体操開発	・過去2年連続で拠点校として研究を行っていたため、教員内での共通認識が取れやすく、児童にも抵抗なく浸透していた。	・校内での共通理解が浸透している。今後は、学力向上への効果も検証したい。	○
外部人材活用・交流による意識の向上	・体力測定記録の前年度比向上 ・アスリートとの交流体験	・体育指導員とのタイアップ。 ・短縄、ダブルダッジ、ボッチャ等の各種目のエキスパートとの交流による意識変容。	・コロナ禍の影響で区内体育指導員とのタイアップ企画は実現できなかった。 ・ダンス、野球、縄跳びのエキスパートを招いて体験授業を実施することができた。	・体力の向上を目指し、調査により示唆されている要改善点への重点取り組みも行いたい。	○
保健・衛生指導を通じた見識の充実	・感染拡大の阻止 ・治癒率の向上	・全校体制（学年・学級・保健）での啓発指導	・感染防止への取り組みの結果、大規模なクラスター等の感染は起こらなかった。 ・受診率は高まっても治癒率の向上には至ってない。	・コロナに限らず今後も感染対策を定着させていく。 ・歯科の罹患率低下と治癒率向上に重点を置く。	△

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

全児童へのタブレット配当が完了し、ITC 活用が本格的に始動した年度であったが、その利便性を活用する段階に至っているとは言えない。デジタルのもつ特徴としての処理速度による時短や瞬時に得られる情報量を従来の授業で補えきれなかった部分で生かし、効率的な学習方法を検討実践していきたい。学力成果としては、全校平均では区学力調査の目標値である通過率 80%を上回ることができたが、学年間による較差もあり、また通過できていない（合格基準に追いついていない）子どもたちへの対応も必須である。そのためには、まずは良い授業作りを目指し、教職員が研修と実践を重ねて児童の学びへの意欲を高めさせることが重要である。次に児童の学習定着度に関する分析と対応策の組織的な検討と実施を全職員で取り組んでゆく。

豊かな心の育成に関しては、いじめ事案など大きなものはなかったが、水面下での児童同士の嫌がらせなどはあった。今後も些細なことでも人権に関わることには、繰り返しになっても丁寧に教え諭し、日常生活と道徳授業などの特別な機会を通して、社会に通じる正しいモラルを身に付けさせたい。

コロナの普遍化や5類への今後の移行などの軽視しがちな風潮に流されず感染対策への意識をもたせ、体育的活動へ積極的な取り組みをさせたい。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

本年度も本校へのご理解と多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。流動的な社会情勢の中で1年間の学校運営が円滑に運べたことは、ご家庭と地域のみなさんのお力添えのお陰です。子どもたちもその温かな見守りの中で、制約の多い限られた条件下での生活を有効に活かし、学習や行事への取り組み、人間関係の育成に取り組まれました。学校の本分である学習は、タブレットの全員配布という新しい学び方の始まりという節目にもなりました。次年度も前に進むための課題に取り組んで参ります。今後も本校へのご支援の程を何卒宜しくお願い致します。

(3) その他（学校教育活動全般について）

今年度までの約3年間は、中止や自粛などで地域やPTA、開かれた学校づくり協議会主催の行事などが少なかったため、子どもたちには、人との関わり合いが実践できる各種行事に参加できるように推進していきたいと考える。